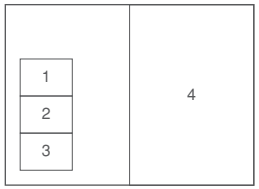
CD 03 077～080

菊-2【きく】

■高貴の象徴として造型が完璧な出来
■観賞花としての菊が主流

数多く表現された花の中でも別格に位置する美性

観菊会、菊人形、菊花宴、菊酒と、菊を冠した名称にみるように、元来自然美を愛する国民性でありながら、菊に関しては、観賞花としての人工美を愛したところに菊の特殊性があります。文様もまた、それを菊の美としてとらえ、独自の様式美をもった菊文様が多く生み出されました。



1 打掛（うちかけ）の中輪菊　CD 03_077
野生と違う明らかな観賞菊ですが、秋草を配して自然観を表現しています。

2 小袖裂（こそでぎれ）の菊　CD 03_078
やや写実表現ですが、意匠性を強める手段としての彩色の奔放さに、学ぶべき感性がほとばしっています。

3 着物の大輪菊　CD 03_079
乱れる大輪菊のデフォルメが、躍動感の少ない菊文様には珍しい表現になっています。

4 蒔絵家具の菊　CD 03_080
重層をなす大輪菊の、細緻でありながらしつこくならないバランス感覚をもった表現に注目しましょう。